

第197回国会 平成30年11月16日 衆議院内閣委員会(議事速報)

○牧原委員長

次に、日吉雄太君。

○日吉委員

自由党の日吉雄太でございます。本日、質問の機会を頂戴いたしまして、ありがとうございます。時間も余りありませんので、早速質問に入らせていただきます。

先ほどから質問が出ているところではございますが、改めまして、人事院で行われている調査の実態について少しお伺いをさせていただきます。公務員の給与と比較する形で民間の給与水準の調査、こういったことが各方面で行われておりますが、その中で人事院では、業種別民間給与実態調査、こういったものを行っているところでございますが、この調査の結果が公務員の給与の水準を決定するにおいて適切な方法で行われている、過去にいろいろな見直しもございましたけれども、この調査の方法、こういったものについて適切かどうか、こういった御判断、認識をお伺いいたします。

○森永政府参考人(人事院事務総局給与局長)

人事院勧告は、官民の給与を均衡させるということで、民間企業の従業員の給与を調べまして、公務員の給与と精緻に比較をして、その差を埋めるということで勧告をいたしてきてございます。そのため、そういった、公務員に匹敵するような、相当するような従業員のいる民間企業に直接出向いてきまして、賃金台帳から個別にその給与をしっかりと拾い出してきて、正しい調査を、正確な数字を持ってきているというところでございます。この方法については、長年定着をしてきているというふうに理解をしてございます。

○日吉委員

いろいろな事業所に訪問して、いろいろそこでヒアリングをしながら、その実態等を把握しながら調査の結果をまとめているというふうに理解しております。

こういった調査、これが各民間企業の働き方とか、効率性、効果、そういった仕事の質、こういったものも含めた上で最終的に比較していくということが求められていくのかなというふうに思いますが、そういった中で、実際にこの調査の結果、これを適切に反映させて今回の給与法の改正ということになっていくと思うんですけども、この中におきまして、今回の改正において、例えば、民間との給与の較差、こういったものが実際に埋められたのかどうか。

例えば、初任給の問題、企業の業績が変動したときのボーナスの問題、個々人の評価の問題等ありますけれども、この点につきまして大臣にお伺いしたいと思っております。

○宮腰国務大臣

本年の人事院勧告につきまして、政府としては、労働基本権制約の代償措置の根幹をなす人事院勧告制度を尊重するとの基本姿勢のもと、国政全般の観点から検討を行った結果、人事院勧告どおりの国家公務員の給与改定を行うことが適当であると判断したものであります。

今回の給与改定は、雇用・所得環境の改善が続く中で、民間の給与の上昇を反映したものであり、公務員の給与改定も含めて、経済の好循環のさらなる拡大に寄与するものと考えております。

○日吉委員

今の大臣の発言の中で、経済の好循環が実際に今実現しているかどうかといったところには議論

が分かれるところかなというふうには思っておりますけれども、そういったことを考えた上で埋められているということではございますが、その一方で、公務員の給与の実態が中小の民間の企業の給与の算定の参考になる、公務員の給与を踏まえて民間の中小企業の給与が決定していく、こういった側面もございます。この点につきまして、大臣はどのようにお考えになっておりますでしょうか。

○宮腰国務大臣

今ほども少し申し上げましたけれども、確かに、全国の民間企業は、特に中小企業におきましては、大企業と違いまして、交渉で決まるということではなくて、やはり参考になる指標を参考にして決めていくということが多いのではないかとというふうに思っております、そういう面では、公務員給与の改定の数字というのはそれなりに参考指標になっているのではないかとというふうに考えております。

○日吉委員

そうしたら、次に、人材の確保について少しお伺いをさせていただきます。

一般に、景気がいいときは公務員になる方というのが少なくなる、一方、逆に、景気が悪いと公務員になる人がふえる、こういうふうに言われているところでございますが、そういった中で、トレンドとしては、今、公務員になりたい方というのが減ってきていると言われておりますが、この現状につきまして大臣はどのようにお考えでしょうか。

○宮腰国務大臣

行政課題の複雑高度化が進む中で、高い気概と使命感を有する人材を確保していくことは重要な課題であると認識しております。

しかしながら、委員御指摘のように、若年人口の減少、あるいは若者の就業意識の変化、あるいは民間企業のここ最近の採用意欲の高まり、人手不足などを背景にいたしまして、国家公務員採用試験の申込者数は中長期的には減少傾向にあるなど、その人材の確保は厳しいものがあるというふうに認識しております。

こうした中、持続的に優秀な人材を確保できるよう取り組むことが極めて重要であるというふうに考えております。

○日吉委員

今大臣おっしゃられるように、中長期的に公務員への志願者が減っていく中で、持続的に人材を確保していく、こういったことが大事になる、確かにそのとおりだと思います。

そういった中で、昨今、若い方が公務員についてどういうふうに思っているかという、やはり、そんなに給料がよくない中で長時間労働が強いられているというような印象を持っている方も多いと思います。

また、こういった昨今のいろいろな不祥事等がございました。財務省による公文書の改ざんを始め、厚生労働省によるデータの捏造的なもの、こういったことがある中におきまして、やはり公務員になろうという人材が減ってきているのではないかなというところでございます。

やはり、志を持って、公務員として、例えば官僚として働きたいという若い方々もいると思うんですけども、そういった中で、やはり、それにちゅうちょするというような事態も生じているのかなというふうに思っております。

そういった意味で、一般企業に優秀な人材が行く、これも必要ですけれども、その一方で、公務員の中で優秀な人材を確保していく、これも非常に重要なことになってまいります。そういった意味におきまして、どのような形で今後取り組むことによって人材をしっかりと確保していくのか、大臣のお考えを教えてくださいませんか。

○宮腰国務大臣

持続的に優秀な人材を確保するためには、委員御指摘のとおり、国家公務員の働き方改革を進めるとともに、公務の魅力の積極的な発信を行うことが重要であるというふうに考えております。働き方改革につきましても、今ほどもいろいろな御意見がありましたけれども、長時間労働を前提とした働き方を改め、男女を問わず全ての職員にとって働きやすい勤務環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

特に、公務の魅力の発信につきましても、関係府省と連携協力しながら、多様な媒体を活用した情報発信の強化や広報資料の充実を図るとともに、女性や、地方大学、大学一、二年生などの早期段階の学生といった、対象ごとにきめ細かく、効果的に訴求するよう、例えば、女子学生霞が関インターンシップ、これは年に二回、一回のインターンシップ一週間、一回で二百人、これを二回ですから、年間四百人のインターンシップを受け入れているというような取組も進めておりますし、キャリア形成イベントなどの各種イベントなども開催をしております。

今後とも、持続的に優秀な人材を確保できるよう、国家公務員の魅力の発信などにしっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○日吉委員

今、大臣の御答弁の中で、魅力の発信、これを積極的に行っていくというお話がございました。その魅力の発信の前提として、どういった魅力が公務員にあるのか、こういったことが、やはり、それを志願する方々にとっては非常に興味があるところでございます。大臣の考える公務員の魅力、これについて教えてくださいませんか。

○宮腰国務大臣

私はまだ一般公務員の経験がありません、恐らく一生涯ないとは思いますが、自分なりに、三十二歳から県議をずっとやっております、公務員の皆さん方とのお付き合いというのはもう三十五、六年になるということでもあります。

公務員のタイプはいろいろあるんですけれども、総じて言えることは、やはり責任感が強い。地方公務員、国家公務員、ほぼそうだと思います。

それから、ただ、問題は、勘のいい人とそうでない人もいます。例えば、いや、これは問題ではないかということがあったときに、直ちにそれに取り組んでみようかなというふうに思う人と、やはり上から指示がないとなかなか動けないよねというような方と、いろいろあると思います。

しかし、全体として、やはり、お国のために働いている、あるいは地域のために働いている、また、消防士さんであれば、何かあれば命をかけてでも頑張るといふ崇高な使命を負っているということだと思いますし、いろいろな事件があるたびに、例えば、海上保安庁、保安官に手を挙げる人がぐっと増えたり、やはり、いろいろな意味で、魅力の発信、あるいは大事な使命を果たしているというふうなことの発信についても取り組んでいく必要があるのではないかなというふうに思っております。

○日吉委員

今、大臣の、公務員の魅力についてお話を伺いました。確かにそういう面もあるのかなというふうに聞いているところでございました。

その一方で、私、公務員の皆様にちょっと申し上げたいなというところは、やはり、野党としまして、いろいろな、森友案件にしましても、こういうヒアリングをしているときに、尋ねたことに対して直接的な回答がなかなかないとか、ちょっと話をそらされるようなこと、こういったケースも多々あるのかなというところがあります。やはりそういったところはしっかりと、真相を解明するに当たって協力していく、そういった立場に立った回答なり職務を心がけていただきたいなというふうに思っているところでございます。そういった観点から、大臣、それについて一言お願いできますでしょうか。

○宮腰国務大臣

職員の一人一人が国民全体の奉仕者であることを自覚し、職務の遂行に当たっては、法令を遵守するとともに、高い気概、使命感及び倫理観を持って職務に全力を傾注するよう、政府全体として徹底してまいります。

使命感あるいは倫理観、服務規律の遵守というのは、これは当然のことだというふうに思っております。それが徹底するように努めてまいりたいというふうに考えております。

○日吉委員

時間が参りましたので、終わります。どうもありがとうございました。